

幼児教育施設、市町村・市町村教育委員会、小学校、特別支援学校の皆様！！

# 幼児教育相談員派遣事業

を活用してみませんか？

## 幼児教育相談員派遣事業とは？

幼児教育の知識や経験のある相談員（大学教授・実践経験者等）を幼稚園、保育所、認定こども園、市町村・教育委員会、小学校、特別支援学校に派遣して、ご希望のテーマや内容で研修や助言を行う事業です。

講師がいない、予算がないなど、研修でお困りの際は、簡単な手続きで気軽にご利用いただけます。派遣費用は無料です。

## こんなときは相談！

園内研修の講師を探さなきゃ、でも、予算もないし、どうしよう、



パチン

こんにちは！  
そんなときは「幼児教育相談員派遣事業」をオススメするぜ☆

誰！？  
そして気になる！

相談員を無料で派遣してくれて、  
希望のテーマで研修や助言を  
してくれるんだぜ☆

「環境構成の工夫と保育者の援助」  
「幼小連携・接続の推進」  
「幼稚園の教育課程の編成・実施」  
「保育所の全体的な計画の作成」  
「特別な配慮を要する乳児期への関わり」  
など

## 派遣手続きは簡単です！

①オンラインで手続きします。希望日の1か月前までに、インターネットからお申し込みください。

※ インターネットでの申し込みが難しい場合は、個別に対応しますので、お問い合わせください。

②後日、派遣日程などを連絡します。

③指定の日時に相談員が訪問します。

※ ご希望により、リモートで実施することも可能です。

リモートに必要な機材の貸し出しも無料で行っています。

## 処遇改善等加算Ⅱについて

幼稚園・認定こども園（保育所型認定こども園を含む。）の場合、幼児教育相談員は、処遇改善等加算Ⅱの園内研修の要件の1つである外部講師に該当します。

※ 保育所・地域型保育事業所の場合、園内研修は対象となりません。

※ 実際に処遇改善等加算Ⅱの要件を満たすか否かについては、他の要件もありますので、加算認定を行う市町村等にご確認ください。

分からないことがあればいつでも  
問い合わせ  
してくれよな☆

やった！

すぐに、申し込みなきゃ！  
手続きも簡単そうだよ！  
どうも、ありがとう！

☺お申し込みは、次のURL又は2次元コードから☺

<https://www.harp.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=INo81rFa>



☺申込み、問い合わせ先☺

北海道教育庁学校教育局義務教育課幼児教育推進センター

☎011-206-6345 📠011-232-1072

✉️koyoiku.yoji@pref.hokkaido.lg.jp



裏面の相談事例も、  
見てくれよな☆



# 幼児教育相談員の助言による園運営の改善方策等の事例

相談内容	助言を踏まえた園運営の改善方策等
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの深い学びや人とかかわる力を育むために、発達の段階に応じた主体的な遊びなどについて、保育日誌や実践事例等で援助や環境構成を共通理解しながら、「深い学び」ができる環境を再構成していく。</li> <li>・一つ一つ遊びを通して子どもが何を学んでいるのかを見取り、考えていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びとなっているか日々保育を振り返り、翌日以降の保育の改善につなげていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢保育を進めていく中で、各年齢の安全配慮事項のすり合わせを行っていく。</li> <li>・遊びを通じた指導について、保育者の役割を踏まえた話し合いを行いながら保育に取り入れていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを意識した保育を実践し、振り返りを行いながら、小学校以降の学びにつなげていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育日誌や週の反省等により、保育者間の共通理解を図り、保育者の学びにつなげていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿をより深く見取り、子どもが試行錯誤しながら目的に向かう姿を支えていく。</li> <li>・子どもが様々な方法を試して選択したり、遊びの幅が広がったりするよう意識して援助していく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの協働的な活動の中での学びや育ち、経験を大切にしていく。</li> <li>・子どもたちが主体的に遊びを進めていくことができるよう、タイミングを見極めて援助していく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信のない子どもの遊びの中での意見の言い方や話し合いの仕方などを園全体で考え、丁寧にいかかわっていく。</li> </ul>
・公開保育の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、話し合いを民主的でよりよい対話とするための援助、主体的に環境を作る力を育てるための援助を探り、保育者間で話し合いながら進めていく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・園内研修の助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の種目に異年齢で行う競技を取り入れるなど、異年齢の連携を取りながら保育を進めていく。</li> <li>・他園に研修に行ったり、自園での研修を積極的に行い、保育者の資質・能力の向上を目指していく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者と子どものやり取りが対話の基礎となるため、子どもたちがそれぞれの思いを表現する時間を大切にしながら、子ども同士の対話につながる仕掛けを作っていく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自分なりに表現する機会を増やし、子ども同士のかかわりを増やしていく。</li> <li>・子どもに、「できた」喜び実感させられるよう、「認める・ほめる」を大切にする。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの場で輪になるなど、子ども同士の対話を進めていく。</li> <li>・ICTの活用を進めていく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが「みんなでやろう」となったことに、まずは一度、保育者が取り組めるようにし、その後は子どもたちで考えられるようにしていく。</li> <li>・保育者が遊びに入るタイミングやぬけるタイミングを考えながら取り組んでいく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・保育指導案作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを伝えて遊ぶことに消極的な子どもには、色々な遊びに誘いかけながら経験を増やしたり、楽しさを感じて自分なりに発展させることができるよう、かかわりや環境構成を行っていく。</li> </ul>
・公開保育の助言 ・特別な配慮を要する子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定保育や季節の行事の導入で、子どもが「わくわく」するような環境を設定していく。</li> <li>・子どもが主体的に取り組めるような教材や場の設定を工夫していく。</li> <li>・子どもの心や体の発達の過程を押さえた上で、成長させたい点を見つけて働きかけていく。</li> </ul>
・保育日誌の評価 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに深い学びがあったのかを、振り返りで見ることが少なかったため、子どもの行動や遊びの内容を再確認しながら学びを積み上げ、経験値を増やしていく方法を考えていく。</li> </ul>
・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で取り入れていくという視点で、自分たちならどうするか、どう活かしていけるかということ、保育者同士で話しやすくなった。</li> </ul>
・保育者間の共通理解 ・環境構成や保育の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が主体となる環境づくりを大切にし、保育者間の共通理解を深めていく。</li> <li>・保育者間で、年齢に応じた育ちについての認識を共有し、遊びへの助言や環境の充実等につなげていく。</li> <li>・地域に伝わるふるさとのイベントを、子ども主導の環境教育につなげていくよう工夫していく。</li> </ul>
・サークルタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークルタイムについては、子どもの意見が一人一人違うことや必ず結論を出さなくてもよいことを理解し、経験できるように意識しながら行う。</li> </ul>
・指導案のねらいと活動内容の評価 ・保育室の環境構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで園で実践してきた「保育・教育環境の保育者の資質への振り返り」や「保育施設の快適で心地よい環境づくり」などを評価していただき、改めて認識を深めることができた。</li> <li>・保育活動における学年や個々の状況に応じた遊び、生活支援などを再確認していく。</li> </ul>
・特別な配慮を要する子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グレーゾーンと言われる子ども（人）の視点に立ち、どのような配慮が必要か、職員同士で話しやすくなっている。</li> </ul>
・特別な配慮を要する子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる子については、その子の居心地の良い環境をつくり、ルールを理解して楽しいと思える体験、行動できたという体験を大切にする。会話ができていく子には、会話のやり取りを丁寧にするなどしながら声掛けなどを行っていく。</li> <li>・保護者には、言葉を選びつつ保護者の気持ちに寄り添いながら、園での様子や関わりを伝えていく。</li> </ul>
・不適切保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切保育が生じることのないようにするため、保育者への教育・研修の実施や第三者評価等を通じた気づきの促進、計画作成や振り返りにおける配慮により、職場環境及び職員体制の整備を行っていく。</li> </ul>
・幼小連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小連携における取組例として、小学校区を中心とした授業・保育参観や遠足等の交流を通して連携を進めていく。</li> </ul>